

2013 年度 日本臨床検査医学会 臨時社員総会だより

日 時：2013 年 10 月 31 日（木）16：30～17：30

場 所：神戸国際会議場 1F メインホール（第 1 会場）

村田満理事長より挨拶があり、定款に基づき村田理事長が議長となって、委任状が 87 通で出席者（約 95 名）と合わせ 182 名で、社員（評議員）数（245 名）の 2 分の 1 以上（123 名以上）の出席を満たしており、この会は成立することを告げ議事を進行した。

（その他：名誉会員 7 名、功労会員 7 名が出席）

III. 報告事項

1. 各種委員会活動報告（矢富 裕 総務理事）

2013 年度各種委員会活動について、各委員会のまとめが資料として用意され、主なものについて報告された。

1) 学術推進化委員会（委員長：出原賢治、担当理事：藤田清貴）

昨年平成 24・25 年度学術推進プロジェクト研究課題として 4 課題を採択した。現在これらの課題が進行中である。本年中に平成 26・27 年度学術推進プロジェクト研究課題の公募について検討を行う予定である。

2) 編集委員会（委員長：村上正巳、担当理事：宮地勇人）

①投稿総数は 70 編（うち座長推薦論文 4 編）で、受理 31 編、返却 6 編である。

②優秀論文賞候補 3 論文を推薦した。

③編集委員会企画のトピックスを毎号掲載。

④原著と経験・技術の区別をつけるために、「経験・技術」を廃止し、2014 年 1 月より「Letter」を新設する。

3) 教育委員会（委員長：山田俊幸、担当理事：北島 勲）

①2017 年にスタートする新専門医制度での基本研修プログラムを、2013 年度内に各学会で策定するようにとの機構からの要請に応え、8 月 14 日に臨時特別教育委員会を開催し、プログラム策定につき協議した。

2013 年 12 月までにある程度の体裁のものを作成することとし、現在分担して作業を行っている。

②本学術集会時に昨年同様、「臨床検査を学ぶ若手医師の集い」を開催する。

③専門医試験問題の公開を理事会に要望した。

4) 臨床検査点数委員会（委員長：東條尚子、担当理事：米山彰子）

①平成 26 年度診療報酬改定提案書を作成し内保連を通じて厚労省に提出した。本学会が提出した内容は既収載項目 35 件（うち 6 件は日本臨床微生物学会との共同提案）。他学会（日本神経学会、日本てんかん学会、日本臨床神経生理学会）が本学会との共同提案として提出したものは未収載項目 1 件、既収載項目 4 件であった。

②臨床検査振興協議会、内保連生体検査 WG の有用性調査・コスト調査に積極的に協力した。

5) 学会賞委員会（委員長：三井田孝、担当理事：矢富 裕）

学会賞の数や内容につき、昨年度より継続して検討した。その結果、①学会賞との違いが不明確だった生命科学賞と優秀賞を廃止、②奨励賞を 40 歳未満の会員に授与する若手研究者奨励賞に変更、③ Bergmeyer-Kawai 賞を廃止し、本法人の発展に多大な貢献をした会員への功労賞として河合忠賞を新設、という改訂案を上申し、理事会の承認を得た。新規定により 2013 年度の学会賞の募集と審査を行い、決定した受賞候補者について理事会で承認を得た。

6) 標準化委員会（委員長：古田 耕、担当理事：前川真人）

2012年に起案し、検討をはじめた臨床検査検体の劣化に関する検討結果を解析した。一部の施設は、倫理審査の関係で2013年に入って検討を行った。

この多施設による検討結果の概略を米国Bethesdaで7月に行われたCryobiologyの学会でposter発表した。その後、Biopreservation & Biobanking誌よりinvitationをうけ、現在投稿準備中である。さらに第60回学術集会で当委員会の研究成果も含めて「ヒト液性試料の質 -検査や解析に適正な試料を得るために-」のシンポジウムを企画した。

7) 精度管理委員会（委員長：前川真人、担当理事：谷直人）

①2013年度CAPサーベイは、109施設（対前年で4施設増）が参加した。内訳は新規参加6施設、中止2施設である。新規参加6施設のうち、治験参加を目的とする施設が半数あり、遺伝子検査のみ参加している施設も増えており本年度20件（+8）の申し込みとなった。

②グローバルニュースは予定通り、年4巻発刊している。1年前から電子版を提供しているが、まだアクセス数が少ないため、会員メールなどでの案内を考慮したい。

8) EBLM委員会（委員長：石田 博、担当理事：村上正巳）

4月7日に第1回委員会を開催し、例年通りの学術集会でのEBLM講習会の開催、多施設間の検査情報を用いた共同研究をテーマに活動することを決定した。9月16日の第2回委員会では、講習会内容の確認と修正、多施設間の共同研究として3大学（高知、大阪、山口大学）における長期的な検査値変動の解析と診断能解析などのプレリミナリーな結果の報告と課題整理、今後の実施計画等について討議した。共同研究の結果については、学術集会シンポジウムで発表予定である。

9) 倫理委員会（委員長：通山 薫、担当理事：村上正巳）

第59回学術集会中に委員会を開催した際に、村上担当理事からの推挙により立教大学大学院法務研究科教授・辰井聡子先生に外部委員として参加いただく提案があった。本案は理事会にて承認され、辰井先生ご自身にもご承諾いただいた。第60回学術集会期間中に委員会開催予定である。

10) 利益相反委員会（委員長：佐藤尚武、担当理事：村上正巳）

①「医学研究の利益相反（COI）に関する指針」を作成した。

②ランチョンセミナーなど企業主催のセミナーに関しては、COIの開示対象外としていたが、これらも開示の対象とすることにした。

③日本医学会から「医学研究に関する利益相反（COI）対応の現状についてのアンケート調査」に編集委員会と分担して回答した。

11) コンプライアンス委員会（委員長：山田俊幸、担当理事：村上正巳）

会員の処分の詳細を定めるようにとの会則改定委員会よりの指示を受けて案を策定中である。

12) ガイドライン作成委員会（委員長：諏訪部章、担当理事：北島 勲）

平成12年12月末に「臨床検査のガイドラインJSLM2012」を4,500部発刊し、学会員を含め関係各位に送付した。宇宙堂八木書店から関連学会の書籍コーナーなどで200冊を販売した。8月8日に日本内科学会雑誌12月号の企画として、JSLM2012を取り上げ、大学病院や一般病院の勤務医、開業医、研修医を交え座談会を行った。11月1日の神戸での学術集会で、JSLM2012に関する委員会特別企画を開催する。発刊1年を目途に無料ダウンロードを検討している。

13) 専門医・管理医委員会（委員長：菊池春人、担当理事：北島 勲）

- ①10月30日の委員会で専門医、管理医数の増加についての具体的方策を検討する。
- ②日本臨床検査専門医会教育・研修委員会主催の教育セミナー(5月開催)を管理医にも案内し、管理医から専門医へのステップアップの一助とした。
- ③11月2日開催の教育委員会主催の「臨床検査を学ぶ若手の会」に協力を予定している。

14) 遺伝子委員会（委員長：宮地勇人、担当理事：横田浩充）

- ①遺伝子関連検査の質保証確保に向けて各種ガイドライン普及に向けた方策に関する検討を行った。
- ②遺伝子関連検査の新たな展開として、無侵襲的出生前遺伝学的検査やDTC/OTCの遺伝子関連検査の動向と課題について取り纏めを行った。
- ③臨床検査振興協議会医療政策委員会WG-D「コンパニオン診断薬」（目的：薬事承認と保険償還について実態の把握と課題解決を協議）の活動として、提言取り纏めに関して調査と提案を行った。

15) 国際委員会（委員長：渡邊直樹、担当理事：尾崎由基男）

本学会には、若手会員の国際学会での発表を促進するため、奨励金制度「国際学会奨励賞」がある。しかし、これまで応募が少ないという問題があった。そこで、海外のみならず本邦で開催される臨床検査関連の国際学会にも助成対象の拡大を図った。

また、本制度をさらに周知するため、学術集会で表彰を行うこととした。そのため、応募受付期間や様式の変更を行った。

16) 医療安全委員会（委員長：吉田 博、担当理事：谷直人）

第1回医療安全委員会（5月9日）にて日本医療安全調査機構の「診療行為に関連した調査モデル事業」における当学会の担当委員を当委員会委員から選出した。

後日、同機構から委嘱状が送付された。第60回学会の医療安全シンポジウムのテーマは「臨床検査における個人情報の管理について」であり、4演題と演者および座長が決定した。「医療安全全国共同行動」の会議が7月27日に東京で開かれ、吉田博委員長が出席した。

この「医療安全全国共同行動」の趣旨は「いのちを守るパートナーズ」であり、一般社団法人として設立され、関係各学会、医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会などが参画している。

11月に行われる「医療の質・安全学会」に合わせて、同会議と医療安全全国フォーラムが開催されることと、各学会における医療安全シンポジウムやセミナーの際に、派遣講師の調整や教育資料の協力を提供できることが同会議にて伝えられた。

17) 検査項目コード委員会（委員長：康 東天、担当理事：佐守友博）

- ①2013年度は、2回の委員会を開催した。JLAC10の新規登録を、分析物コード12件、識別コード5件、測定法コード2件、結果識別（固有）コード8件、実施した。
- ②臨床検査項目標準マスター運用協議会で、JLAC10・臨床検査マスターの改善について昨年に引き続き検討している。各団体と共同で、2回のWG会議を開催した。今後、提言書としてまとめる予定である。

18) 広報委員会（委員長：小柴賢洋、担当理事：佐守友博）

- ①本学会広報委員も参加している臨床検査振興協議会広報委員会により、広報用DVD「みんなの臨床検査」が作成された。今後の学会広報活動にも利用可能である。
- ②理事会からの学会ホームページ改訂についてメールにて各委員の意見を尋ねたところ、その必要性については衆目の一致するところであった。具体的な方策は臨床検査振興協議会のホームページ改訂を参考にしつつ、学術集會中に開催の委員会にて討論する予定である。

19) 臨床検査室医療評価委員会（委員長：海渡 健、担当理事：米山彰子）

経営面（収支、必要経費、人件費等）、臨床支援体制（外注比率、チーム医療参加状況、問い合わせ件数等）、学問的体制（学会参加状況、専門技師比率、作成論文数等）を確認するアンケート調査、ならびに臨床検査室の院内評価を高めるポイントを提示するシンポジウム企画、学会としての検査室公式認定の可能性の検討、リスクマネジメントで使用される確認項目を参考とした実態調査などが継続審議事項としてあげられた。

20) 会則改定委員会（委員長：〆谷直人、担当理事：米山彰子）

- ①日本臨床検査医学会定款の改訂作業を行い、2013年3月24日の理事会ならびに定時社員総会にて承認され、翌日の3月25日より本定款の運用を開始した。
- ②引き続き日本臨床検査医学会細則の改訂作業を行い、2013年8月25日の理事会にて承認決定され、翌日の8月26日より本定款の運用を開始した。

21) 渉外委員会（委員長：安東由喜雄、担当理事：尾崎由基男）

- ①企業、他学術団体との collaboration の道を探るため、情報収集をしている。この半年は具体的な活動はしておりません。
- ②日本臨床衛生検査技師会との collaboration の方法を探るため、本田先生が委員長となり、活動している。

22) 日臨技-JSLM 合同未来構想 WG 委員会（委員長：本田孝行、担当理事：尾崎由基男）

日本臨床検査医学会（JSLM）および日本臨床衛生検査技師会（日臨技）から理事を中心とした3名ずつの委員で論議し、以下の5項目を両会に提案した。

- ①日臨技およびJSLMの理事会・各種委員会に相互の理事および委員を派遣する。
- ②専門臨床検査技師認定の統一化を図る。
- ③年次学術集会の合同開催を試みる。
- ④臨床検査技師留学制度の構築。
- ⑤検体部門を外から見える部門にする。

23) チーム医療 WG（委員長：諏訪部章、担当理事：米山彰子）

- ①厚労省チーム医療推進WG：7月11日、特定看護業務説明会に諏訪部が参加し、本学会からのパブリックコメントを取りまとめ提出した。
- ②学術集会 委員会特別企画：11月2日の学術集会で臨床検査関連団体から代表者を交え、「一致団結！臨床検査とチーム医療」と題して、今後の方向性に関して議論し情報の共有化をはかる。
- ③日臨技「検査説明・相談のできる技師育成WG」：米山・諏訪部が学会推薦委員として参加。12月に研修会が予定されている。

24) 研修施設・指導者認定委員会（委員長：村上正巳）

1月1日、7月1日付での新規申請施設、再認定施設の、研修施設・指導者についての適否の審査を行い、審議会に報告した。

25) 受験・更新資格審査委員会（委員長：土屋達行）

- ①2013年度臨床検査専門医初回受験応募者20名の審査を行い、20名を受験有資格者と判定した。
- ②2014年1月1日付専門医資格更新者について、審査予定である。
- ③臨床検査管理医の認定試験受験者23名の審査を行い有資格者として認定した。

26) 試験委員会（委員長：高橋伯夫）

8月17日、18日実施の臨床検査専門医認定試験内容などについて検討を行い、臨床検査専門医認定試験の可否案を試験実行委員会との合同会議で作成し、本委員会で合否判定を行った。

27) 臨床検査専門医認定試験実行委員会（委員長：小柴賢洋）

8月17日、18日に臨床検査専門医認定試験を実施した。

28) 臨床検査管理医認定試験実行委員会（委員長：矢富 裕）

9月15日に臨床検査管理医講習・認定試験を実施した。

29) 臨床検査専門医制度検討委員会（委員長：土屋達行）

①研修施設群設定のための研修施設へのアンケート調査

将来の研修施設群の設置のために研修認定施設へ研修可能な領域について調査を行った。

結果は、教育委員会で研修施設群の設置を行なう際の資料とする。

2. 第61回日本臨床検査医学会学術集会報告（福岡 2014/11/22(土)～11/25(火)）（村田満 理事長）

2014年11月22日（土）～11月25日（火）に福岡国際会議場で、康東天会長（九州大）のもと開催されることが報告され、康会長から一言御挨拶があった。

3. 第62回学術集会報告（岐阜 2015/11/19(木)～11/22(日)）（村田満 理事長）

2015年11月19日（木）～11月22日（日）に長良川国際会議場、都ホテルで、清島満会長（岐阜大）の開催されることが報告され、清島会長から一言御挨拶があった。

4. 定款・細則の改定について（村田満 理事長）

昨年の臨時社員総会で承認を得た骨子案により会則改定委員会において定款改定の検討を行い、3月24日の理事会、定時社員総会で新定款が承認された。そして、新定款に基き検討された細則が8月25日の理事会において承認され、9月17日に会員にメールで、定款、細則改定のお知らせを配信したことが報告された。

5. 2014年度からの事業年度(会計年度)と委員会等の活動年度について（村田満 理事長）

現在、事業年度(会計年度)は1月～12月だが、新定款、細則により、役員交代が定時社員総会後からとなり、ほぼ4月～3月となる。委員会構成の検討は新役員になってから検討されるため、これに併せて委員会等の活動年度も4月～3月とすることが実動にあっていると役員任期と合せることが報告された。

6. 役員(理事・監事)選挙について（村田満 理事長）

2014・2015年度理事、2014・2015・2016・2017年度監事選出のため選挙が実施されるが、改選対象人数は理事5名、監事1名であり、選挙日程は、公示：10月11日（金）、立候補届受付期間：10月25日（金）～11月6日（水）、選挙投票用紙発送11月15日（金）、投票締切12月9日（月）必着、開票12月10日（火）であることが報告された。

7. 消費税増税での臨床病理誌等の価格について、年会費について（北島 勲 会計理事）

2014年4月1日より消費税8%の増税が決定したため、当会臨床病理誌の価格についてもそれに従った消費税価格とすることとなり、月刊誌（4～12号）は2,100円+消費税の2,268円、抄録5,000円+消費税の5,400円とすることが報告された。

今後、増税により当会の支出が増えていくことが予想されるが、2014年度は会費の値上げは控え、2014年度の収支等を確認し、値上げする必要があるれば検討することが報告された。

8. その他（村田 満 理事長）

日本専門医制評価認定機構の「専門医等情報データベース作成等事業」実施計画について

専門医の質の向上をはかり、専門医、研修施設の偏在の是正につなげるため、現在、各学会が独自に認定を行っている専門医および専攻医についての分布状況や研修状況等の情報を収集し、データベースの作成を行うことを目的として、基本 18 診療領域の現専門医の氏名、性別、生年、取得年月、最新更新年月、勤務先、勤務先住所のデータの提出を 11 月末日までに求められていることが報告された。

IV. 審議事項

1. 2013 年度中間決算報告・2013 年度補正予算案・2014 年度会計予算案について（北島 勲 会計理事、村田 満 理事長）

2012 年度収支決算報告は 2013 年 3 月 24 日に開催された定時社員総会で承認され臨床病理 4 月号にも掲載されている。2014 年度予算案、2013 年度補正予算案、2013 年度中間報告、2014 年度予算案について、次の説明がなされ、承認された。（後頁に掲載）

(1) 2013 年度補正予算案について

<一般会計>

◇収入

- ・2012 年度の一般会計の収支差額が約 680 万円マイナスであり、臨床検査のガイドライン JSLM2012 費用の額（6,740,727 円）とほぼ同額であったため、3/24 の理事会、定時社員総会で、それを特別会計から補填することが承認されていたため特別会計から一般会計へ 6,740,727 円補填した。
- ・専門医更新料、管理医申請料、登録料、更新料の金額を確定できたので修正した。
- ・若手医師の会補助金は、日本医師会からの助成金が上限 30 万円であるためその金額を追加した。
- ・第 59 回学術集会からの返戻金を追加した。

◇支出

- ・委員会活動費用について 9 月 30 日までで既に 250 万円超あるため 300 万円に修正した。
- ・3/24 の理事会で、学術推進プロジェクト助成金を学会賞基金から支出するとなったため支出を 0 円とした。
- ・若手医師の会諸費用額について、助成金の 30 万円を追加した。
- ・法人税、住民税および事業税を予算立てしていなかったため 2012 年度の実績と同じ 70,000 円を追加した。

<特別会計>

◇収入

- ・今年は契約書を取り交わすことにより、11 月 27 日の JACLaS の理事会後に送金できる見通しとのことにより 2013 補正予算案に JACLaS からの寄付金 1200 万円を追加した。

◇支出

- ・一般会計への臨床検査のガイドライン 2012 費用補填分（6,740,727 円）があるため追加記載した。

<学会賞基金>

◇収入

- ・河合忠元会長より、学会賞基金への寄付金として 200 万円をご寄付いただいたので追加した。

◇支出

- ・学会賞副賞が確定できたため、その金額に修正した。
- ・学術推進プロジェクト研究助成金については、学会賞基金から支出することとなったため、助成金額を記載した。
- ・3 月 24 日の理事会で国際学会奨励賞受賞者 1 名が決定したので、副賞を学会賞基金に追加記載した。

(2) 2014 年度予算案について

<一般会計>

◇収入

- ・2012 年度決算に準じ予算立てした。
- ・検査診断事典編集・著作権使用料等収入は、出版社に概算収入を伺ったところ、2014 年度は改訂年のため、約 400 万円の収入が見込まれるということであったため 300 万円の予算とした。
- ・第 60 回学術集会からの返戻金額を、矢富裕会長からお申し出の金額 1,200 万円を追加した。

◇支出

- ・2014 年 4 月 1 日以降、消費税 8%への増税が実施されるため、それに該当する支出の項目について、会計事務所にも確認し支出額を増額した。
- ・学術集会補助金を各回毎に分け判り易くした。
- ・2015 年 4 月開催予定の当会第 10 回特別例会補助金として 50 万円を予算立てした。
- ・各種委員会活動補助金は、委員会からの経費の問合せの回答を参考にし約 300 万円とした。
- ・旅費・交通費を 2012 年度実績に合わせた。
- ・納付消費税について、会計事務所に確認して増税分を含めて 60 万円の予算とした。

<特別会計>

◇収入

- ・JACLaS からの寄付金収入を 1200 万円とした。2014 年度からは寄付金の件を定款に盛り込み年度毎の会計結果に基づいてご寄付いただけるとのことである。

◇支出

- ・第 61 回学術集会補助金として 1200 万円を立てた。

<アジア交流基金>

◇支出

- ・第 13 回 ASCPaLM (韓国) が開催予定のため、例年に習い、一応補助金 50 万円を立てた。

<学会賞基金>

◇収入

- ・ロシュ社から 100 万円、積水メディカルから 50 万円、シスメックスから 50 万円のご寄付いただける予定。

◇支出

- ・学会賞副賞、学術推進プロジェクト研究助成金、国際学会奨励賞副賞を予算立てした。

2. 2013 年度事業中間報告について (矢富 裕 総務理事)

2013 年度事業中間報告があり承認された。(後頁に掲載)

3. 2014 年度事業計画 (案) について (矢富 裕 総務理事)

2014 年度事業計画 (案) が提示され承認された。(後頁に掲載)

4. 2014 年度からの名誉会員・功勞会員・社員(評議員)の推薦について (村田 満 理事長)

名誉会員として、理事会から熊坂一成先生、土屋達行先生、高橋伯夫先生、小出典男先生の 4 名の推薦があり承認された。

功勞会員として、各支部から推薦され理事会で承認された下記 11 名が推薦され承認された。

青木芳和先生、大澤進先生、川合陽子先生、溝上雅史先生、宮哲正先生 (関東・甲信越支部)、

岡部英俊先生、野崎修先生（近畿支部）
新見道夫先生、服部幸夫先生（中国・四国支部）
大田俊行先生、山根誠久先生（九州支部）

各支部から推薦され理事会で承認された下記 19 名が評議員として提示され承認された。
赤坂和美先生（北海道支部）、長沢光章先生（東北支部）
下澤達雄先生、田中朝志先生、東田修二先生、中西邦昭先生、古田耕先生（関東・甲信越支部）
小林礼先生、酒井佳夫先生、仁井見英樹先生、村田哲也先生（東海・北陸支部）
坂本秀生先生、茶野徳宏先生、中町祐司先生、日野雅之先生、古田眞智先生（近畿支部）
内海健先生、末岡栄三朗先生、手嶋泰之先生（九州支部）

5. 日本臨床検査医学会と日本医学検査学会学術集会の同時期開催について（村田 満 理事長）

2016 年 8 月末から 9 月初旬に神戸国際会議場で、IFBLS World Congress、日本医学検査学会学術集会が開催予定であり当会学術集会との同時期開催について、当会と日臨技で組織した日臨技-JSLM 合同未来構想 WG により提案され、そして、そのメリット、デメリットを参考に理事会で協議し、一緒に開催する意義が大きいとなり同時期開催を予定することが報告され、承認された。
実際の開催方法については、今後、関連する諸団体と協議していくこととなった。

6. 第 62 回（平成 27 年度；2015 年）学術集会長の推薦について（村田 満 理事長）

IFBLS World Congress、日本医学検査学会学術集会と当会の学術集会が神戸で同時期開催されることがあるため、近畿支部から小柴賢洋教授（兵庫医大）が推薦され、承認された。
小柴先生から一言御挨拶があった。

7. 第 10 回特別例会長の推薦について（第 29 回日本医学会総会 2015 関西 開催時, 2015/4/11～13） （村田 満 理事長）

2015 年 4 月 11 日～13 日に開催される第 29 回日本医学会総会 2015 関西 と同時期に日本医学会分科会として開催される当会第 10 回特別例会会長として、近畿支部より熊谷俊一先生（元神戸大）が推薦され、承認された。
承認後、熊谷俊一先生の代理で、特別例会の事務局を担当される河野誠司先生（神戸大）より一言挨拶があった。

8. 新専門医制度への臨床検査専門医制度の対応について（村田 満 理事長）

1) 専門医制度研修プログラム整備指針に基づいた専門医研修プログラムの作成

日本専門医制評価・認定機構理事会において、各診療領域の研修プログラム作成の指針となる「専門医制度研修プログラム整備指針」が 2013 年 7 月に承認され、新専門医制度は 2017 年発足予定であり、2015 年末には中立的第三者機関による認定を済ませた各研修プログラム準備の必要があるため、専門医制度研修プログラム整備指針を参考に、2013 年度中に基本となる研修プログラム作成の依頼があった。このため、当会教育委員会に、臨床検査専門医研修プログラム作成の依頼をしたことが報告され、承認を得た。

2) 臨床細胞学会、人類遺伝学会からのサブスペシャリティ領域学会の認定依頼

日本人類遺伝学会からサブスペシャリティ学会としての認証依頼、日本臨床細胞学会から当会を基本領域学会とした新制度専門医の候補として承認し日本専門医制評価・認定機構への推薦依頼があり、両学会からの依頼について理事会で承認され、両学会に承諾で回答したことが報告され、承認を得た。

8. その他（矢富裕 総務理事）

2013年度に係る定時社員総会は、2014年3月29日（土）に開催予定であることが報告された。

V. 閉会 前川真人 副理事長から閉会のご挨拶

前川真人副理事長から閉会の挨拶があり、臨時社員総会を閉会した。

2013年度 日本臨床検査医学会 総会だより

日 時：2013年11月1日（金）13：20～14：20

場 所：神戸国際会議 1F メインホール（第1会場）

出席数：約185名

まず、村田満理事長より挨拶があった。

そして、第60回学術集会長の矢富裕会長が議長となって議事を進行した。

臨時社員総会と同じ内容の報告がなされた。

その後、表彰式（名誉会員顕彰、功労会員顕彰、感謝状授与、学会賞・国際学会奨励賞受賞式、臨床検査専門医認定証授与）が執り行われた。

前川真人副理事長より挨拶があり総会を閉会した。

《2013度中間報告・2013年度補正予算案・2014年度予算案》

一般会計

自 2013年1月1日 至 2013年6月30日

(単位:円)

【経常損益の部】	2013予算	2013補正予算案	2013中間実績	2012決算	2014予算案
(事業損益の部)					
[事業収入]					
正会員会費収入(学生会費含)	32,000,000	32,000,000	29,273,000	35,283,000	32,000,000
功労会員会費収入	1,029,000	1,029,000	764,000	805,000	1,057,000
評議員会費収入	250,000	250,000	217,000	266,000	250,000
賛助会費収入	4,000,000	4,000,000	3,400,000	3,490,000	3,600,000
臨時会費収入	1,200,000	1,200,000	516,000	948,000	1,200,000
会費収入 合計	38,479,000	38,479,000	34,170,000	40,792,000	38,107,000
専門医受験料収入(再試験料含)	1,500,000	1,500,000	1,110,000	930,000	1,000,000
専門医登録料収入	900,000	900,000	0	480,000	600,000
専門医更新料収入	990,000	830,000	830,000	940,000	700,000
専門医関連収入 合計	3,390,000	3,230,000	1,940,000	2,350,000	2,300,000
管理医受験料収入	1,200,000	1,200,000	230,000	720,000	720,000
管理医申請料収入	150,000	65,000	65,000	90,000	100,000
管理医登録料収入	400,000	240,000	240,000	220,000	230,000
管理医更新料収入	1,190,000	790,000	780,000	490,000	1,000,000
管理医関連収入 合計	2,940,000	2,295,000	1,315,000	1,520,000	2,050,000
外販収入	13,800,000	13,800,000	2,157,509	9,436,778	9,500,000
広告収入	4,000,000	4,000,000	1,066,800	3,840,900	3,800,000
学会機関紙事業収入 合計	17,800,000	17,800,000	3,224,309	13,277,678	13,300,000
名簿広告料収入	0	0	0	235,200	300,000
出版事業収入	1,100,000	1,100,000	163,170	1,239,000	1,100,000
許諾使用料収入	500,000	500,000	157,641	470,256	500,000
臨床検査ガイドライン冊子収入	1,000,000	1,000,000	371,608	56,140	500,000
臨床検査ガイドラインHB著作権料収入	0	0	0	1,000,000	0
臨床検査ガイドラインHB編集査読料収入	0	0	0	1,900,000	0
検査診断事典編集・著作権使用料等収入	2,000,000	2,000,000	672,518	4,048,880	3,000,000
会議室使用料収入	1,500,000	1,500,000	698,628	1,316,360	1,500,000
雑収入(若手の会補助金の金額を含む)	0	300,000	37,800	293,676	300,000
その他の事業収入 合計	6,100,000	6,400,000	2,101,365	10,559,512	7,200,000
特別会計より:臨床検査のガイドライン2012 費用補填分	0	6,740,727	6,740,727	0	0
第58回学術集会(岡山)より	0	0	0	3,766,294	0
第59回学術集会(京都)より	—	4,028,380	0	—	—
第60回学術集会(神戸)より	—	—	—	—	12,000,000
補填分,学術集会返戻金等 合計	0	10,769,107	6,740,727	3,766,294	12,000,000
事業総収入	68,709,000	78,973,107	49,491,401	72,265,484	74,957,000

	2013予算	2013補正予算案	2013中間実績	2012決算	2014予算案
[事業経費]					
学会機関紙発行費用 合計	27,000,000	27,000,000	10,996,951	29,443,518	27,610,000
支部活動補助金	2,900,000	2,900,000	2,832,500	2,804,000	2,900,000
各種委員会活動補助金	2,000,000	3,000,000	1,588,915	2,953,944	3,000,000
第59回学術集会補助金	—	—	—	4,000,000	—
第60回学術集会補助金	4,000,000	4,000,000	4,000,000	1,000,000	—
第61回学術集会補助金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	—	4,000,000
第62回学術集会補助金	—	—	—	—	1,000,000
第10回特別例会補助金	—	—	—	—	500,000
学術推進プロジェクト研究助成金	2,500,000	0	0	2,500,000	0
専門医認定試験費用	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,087,393	2,000,000
管理医講習・認定試験費用	500,000	500,000	—	470,778	500,000
会員証発行費用	50,000	50,000	11,193	91,811	50,000
諸会費	2,600,000	2,600,000	1,492,856	1,943,382	2,600,000
臨床検査ガイドライン冊子作製費用	30,000	30,000	23,070	6,763,827	30,000
名簿作製費・確認作業・送料	0	0	239,065	816,690	1,030,000
事業費 合計	17,580,000	16,080,000	13,187,599	25,431,825	17,610,000
会議費	900,000	900,000	399,854	931,708	920,000
旅費交通費	3,000,000	3,000,000	862,310	3,595,360	3,500,000
通信費	1,400,000	1,400,000	641,983	1,307,459	1,430,000
事務用品費・印刷・リース費	1,700,000	1,700,000	753,673	1,777,187	1,740,000
事務委託費	1,260,000	1,260,000	630,000	1,260,000	1,300,000
顧問料	945,000	945,000	945,000	945,000	960,000
交際費(慶弔費)	50,000	50,000	4,970	50,860	50,000
事務所賃借料	5,700,000	5,700,000	2,826,492	5,652,984	5,820,000
事務所諸経費	600,000	600,000	273,596	637,950	620,000
事務所備品代	300,000	300,000	5,180	438,837	310,000
水道光熱費	400,000	400,000	195,311	376,491	410,000
給与・手当	6,000,000	6,000,000	1,980,199	5,170,963	6,000,000
法定福利費	800,000	800,000	377,334	782,667	800,000
退職掛金	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000
消耗品費	200,000	200,000	121,497	234,010	260,000
法人登記変更等費用	100,000	100,000	97,650	79,800	100,000
雑費	300,000	300,000	81,970	177,730	300,000
減価償却費	0	0	0	18,563	0
若手の会諸費用	—	300,000	0	293,596	300,000
予備費	74,000	11,468,107	0	0	3,947,000
管理費 合計	24,029,000	35,723,107	10,497,019	24,031,165	29,067,000
法人税、住民税及び事業税 合計	—	70,000	70,000	70,000	70,000
納付消費税等 合計	100,000	100,000	439,000	103,250	600,000
事業経費合計	68,709,000	78,973,107	35,190,569	79,079,758	74,957,000
事業収支差額	0	0	14,300,832	-6,814,274	0
(事業外損益の部)					
[事業外収入]					
受取利息	1,200	1,200	960	3,027	1,000
事業外収入合計	1,200	1,200	960	3,027	1,000
[事業外経費]					
	0	0	0	0	0
事業外支出合計	0	0	0	0	0
事業外収支差額	1,200	1,200	960	3,027	1,000
経常収支差額	1,200	1,200	14,301,792	-6,811,247	1,000

《2013年度中間報告・2013年度補正予算案・2014年度予算案》

特別会計

自 2013年1月1日 至 2014年6月30日

(単位:円)

【経常損益の部】	2013予算	2013補正予算案	2013中間実績	2012決算	2014予算案
(事業損益の部)					
[事業収入]					
日本臨床検査自動化振興会 寄付金収入	—	—	—	12,000,000	—
JACLaSからの寄付金収入	—	12,000,000	—	—	12,000,000
事業総収入	0	12,000,000	0	12,000,000	12,000,000
[事業経費]					
委員会活動費用	—	—	—	723,733	—
臨床検査がパソコン原稿料・ 会員,関係機関送付費用	—	—	—	2,940,727	—
第61回学術集会補助金	—	—	—	—	12,000,000
雑費(支払手数料)	3,000	3,000	2,940	3,570	3,000
事業経費合計	3,000	3,000	2,940	3,668,030	12,003,000
事業収支差額	-3,000	11,997,000	-2,940	8,331,970	-3,000
(事業外損益の部)					
[事業外収入]					
受取利息	0	0	0	17,588	0
事業外収入合計	0	0	0	17,588	0
[事業外経費]					
第59回学術集会補助金補填	—	—	—	12,000,000	—
第60回学術集会補助金補填	12,000,000	12,000,000	12,000,000	—	0
一般会計へ:臨床検査のがパソコン 費用補填分*	—	6,740,727	6,740,727	—	—
退職掛金(H13~23年分)	—	—	—	2,200,000	—
事業外支出合計	12,000,000	18,740,727	18,743,667	14,200,000	0
事業外収支差額	-12,000,000	-18,740,727	-18,743,667	-14,182,412	0
経常収支差額	-12,003,000	-6,743,727	-18,746,607	-5,850,442	-3,000

《2013年度中間報告・2014年度予算案》

アジア交流基金

自 2013年1月1日 至 2013年6月30日

(単位:円)

【経常損益の部】	2013予算	2013中間実績	2012決算	2014予算案
(事業損益の部)				
[事業収入]				
事業総収入	0	0	0	0
[事業経費]				
雑費(支払手数料)	3,000	0	2,415	3,000
事業経費合計	3,000	0	2,415	3,000
事業収支差額	-3,000	0	-2,415	-3,000
(事業外損益の部)				
[事業外収入]				
受取利息	700	300	684	600
事業外収入合計	700	300	684	600
[事業外経費]				
ASCPaLM会議(第12回)補助金	0	0	1,000,000	0
ASCPaLM会議(第13回)補助金	—	—	—	500,000
事業外支出合計	0	0	1,000,000	500,000
事業外収支差額	700	300	-999,316	-499,400
経常収支差額	-2,300	300	-1,001,731	-502,400

《2013年度中間報告・2013年度補正予算案・2014年度予算案》

学会賞基金

自 2013年1月1日 至 2013年6月30日

(単位:円)

【経常損益の部】	2013予算	2013補正予算案	2013中間実績	2012決算	2014予算案
(事業損益の部)					
[事業収入]					
寄付金収入(協賛社より)	1,000,000	1,000,000	0	2,000,000	2,000,000
寄付金収入(河合忠元会長より)	—	2,000,000	—	—	—
事業総収入	1,000,000	3,000,000	0	2,000,000	2,000,000
[事業経費]					
学会賞副賞	2,000,000	1,300,000	0	1,700,000	1,500,000
学術推進プロジェクト研究助成金		2,500,000	2,500,000	—	2,500,000
国際学会奨励賞副賞		100,000	0	—	300,000
租税公課	—	—	—	400	—
雑費(支払手数料)	10,000	10,000	2,940	5,985	10,000
事業経費合計	2,010,000	3,910,000	2,502,940	1,706,385	4,310,000
事業収支差額	-1,010,000	-910,000	-2,502,940	293,615	-2,310,000
(事業外損益の部)					
[事業外収入]					
受取利息	0	0	0	8,789	0
事業外収入合計	0	0	0	8,789	0
[事業外経費]					
	0	0	0	0	0
事業外支出合計	0	0	0	0	0
事業外収支差額	0	0	0	8,789	0
経常収支差額	-1,010,000	-910,000	-2,502,940	302,404	-2,310,000

部門別 現預金残高(2013年6月30日現在)

			2012/12/31	2013/6/30	
	事業	預金種別	銀行名	残高	残高
一般会計部門	普通預金		三菱東京UFJ銀行神保町支店2358455	15,197,032	8,839,231
			三井住友銀行神田支店2468682	825,528	814,674
	普通預金		郵便振替法人00140-9-613334	17,527,506	30,868,766
			現金	383,462	265,921
			小計	33,933,528	40,788,592
特別会計部門	普通決済専用型預		三菱東京UFJ銀行神保町支店2422465	82,658,776	63,915,109
			小計	82,658,776	63,915,109
アジア交流基金部門	普通預金		三菱東京UFJ銀行神保町支店2422478	3,760,778	3,761,078
学会賞基金部門	普通決済専用型		三菱東京UFJ銀行神保町支店2422481	15,912,226	13,909,706
	普通決済専用型		三井住友銀行神田支店2468693	15,150,039	15,149,619
河合忠賞基金	普通預金		三菱東京UFJ銀行神保町支店0529289		0
			小計	31,062,265	29,059,325
			預金残高 合計	151,415,347	137,524,104
退職金積立	普通預金		三菱東京UFJ銀行神保町支店0441780	2,500,000	2,800,059
			預金残高 合計	153,915,347	140,324,163

2013 年度事業中間報告

1. 会議

総会	11月1日			
臨時社員総会	10月31日			
定時社員総会	3月24日			
理事会	3月24日	8月25日	10月5日	12月14日予定
常任理事会	2月22日	7月25日	9月20日	11月29日予定

2. 学術集会

第60回学術集会 10月31日～11月3日（神戸）

3. 刊行物

機関紙	第61巻1～12号	Supplement	第61巻	補冊
名簿	刊行しない			

4. 臨床検査専門医、管理医、研修施設 認定

- ・臨床検査専門医認定試験 8月17日～8月18日（兵庫医科大学）
- ・臨床検査専門医・管理医更新 1月1日
- ・認定研修施設の認定・更新 1月1日、7月1日
- ・臨床検査管理医講習・認定試験 9月15日（東京大学）

5. 会員数

	2012 年度	2013 年度 (10/21)
会員数(合計)	2,919 名	2,783 名
正会員	2,653 名	2,526 名
(評議員)	(254 名)	(245 名)
学生会員	91 名	76 名
名誉会員	42 名	42 名
功労会員	133 名	139 名
賛助会員	32 社	31 社

6. 関連団体（事業）

- 1) 第23回日本臨床検査専門医会春季大会（箱根） 6月28日～29日
- 2) 2013年度JCCLS学術集会（東京） 8月31日
- 3) WASPaLM XXXVII World Congress（ケベック） 6月8日～11日
- 4) 日本臨床化学会 第53回年次学術集会（徳島） 8月30日～9月1日
- 5) 日本臨床検査自動化学会 第45回大会（横浜） 10月10日～12日
- 6) 日本臨床検査同学院 6月～11月
遺伝子分析科学認定士試験、二級臨床検査士試験、緊急検査士試験、
一級臨床検査士試験
- 7) 認定検査技師機構 理事会 8月5日
- 8) 日本専門医制評価・認定機構 社員総会 2月28日 5月8日
- 9) 臨床検査振興協議会 理事会 3月1日 5月29日
8月22日 11月7日予定

2014 年度事業計画 (案)

1. 会議

定時社員総会	3月29日
臨時社員総会	11月23日
総会	11月23日
理事会	3月29日(旧), 3月29日(新), 8月, 10月, 12月
常任理事会	適時

2. 学術集会

第61回学術集会 11月22日～11月25日(福岡)

3. 刊行物

機関紙	第62巻1～12号
Supplement	第62巻 補冊
名簿	刊行する

4. 各種委員会活動

「学術推進化委員会」「編集委員会」「教育委員会」「臨床検査点数委員会」「学会賞委員会」
「標準化委員会」「精度管理委員会」「EBLM委員会」「倫理委員会」「利益相反委員会」
「ガイドライン作成委員会」「検査項目コード委員会」「広報委員会」
「臨床検査室医療評価委員会」「専門医・管理医委員会」「遺伝子委員会」「国際委員会」
「会則改定委員会」「医療安全委員会」「渉外委員会」「日臨技-JSLM合同 未来構想 WG」
「コンプライアンス委員会」「チーム医療 WG」「学術集会委員会」「審査委員会」

臨床検査専門医・管理医審議会

「研修施設・指導者認定委員会」「受験・更新資格審査委員会」
「試験委員会」「試験実行委員会」「臨床検査専門医制度検討委員会」

5. 臨床検査専門医・研修施設

- ・臨床検査専門医認定試験 7月下旬～8月初旬(東京大学)
- ・臨床検査専門医, 管理医更新 1月1日
- ・臨床検査管理医講習・認定試験 9月(東京)
- ・認定研修施設の認定・更新 1月1日, 7月1日

6. 関連事業

- 1) 日本臨床検査専門医会 第24回春季大会(札幌) 5月30日、31日
- 2) 日本臨床検査標準協議会 平成25年度学術集会 8月
- 3) WASPaLM Bureau Meeting 未定
- 4) 日本臨床化学会 第54回年次学術集会(東京) 9月5日～7日
- 5) 日本臨床検査自動化学会 第46回大会(神戸) 10月9日～10日
- 6) 日本臨床検査同学院 (認定臨床検査士試験: 遺伝子分析科学, 二級、緊急、一級)
- 7) 認定検査技師機構 (理事会)
- 8) 日本専門医制評価・認定機構(社員総会、協議委員会)
- 9) 日本臨床検査振興協議会(理事会)
- 10) 各種認定制度協議会